

☆ 上地の字々名にはこんな意味がある

馬乗(まのり)・・・田畑を耕し、荷物を運ぶのに馬はなくてはならない大切なもの・馬に乗って歩いた道。  
 馬不入(うまいらず)・・・馬乗までは馬が通っていたが、ここは馬が入れないくらい山の山だった。  
 堤ヶ入(つつみがいり)・・・大谷池が近くにあり、この辺りは池の縁だったから。  
 上大谷坂(かみおおやさか)・・・馬頭に通ずる細い道が山道で、上り坂が多かった。  
 向畑(むかいばた)・・・西には家があり、その東側(向かい)には畑がたくさんある。  
 西三田ヶ入(にしさんたがいり)・・・西三田ヶ入という池があった。  
 藤六(とうろく)・・・昔、大見藤六という人のお屋敷があった。  
 薬師(やくし)・・・昔、薬師たちが住んでいた。  
 下薬師(しもやくし)・・・薬師たちが住んでいた下の方。  
 八門(ようかど)・・・お屋敷があり、八つの門があったから。  
 芋田(いもだ)・・・里芋を作っていたたんぼがあった。  
 屋敷山(やしきやま)・・・山の上にお屋敷があったから。  
 下屋敷(しもやしき)・・・岡崎のお殿様がくつろぐ場所  
 山ノ上(やまのうえ)・・・この辺りは山が高かった。  
 山ノ田(やまのた)・・・この辺りは山が多かった。  
 向山(むかいやま)・・・山と山が向かい合っている。  
 岳井(がくい)・・・岳というのは大きな山という意味がある。



<下河内 清夏>

☆ 学子羽白発表会△△にむけて

これまでのふるさと学習を通して、地域の方との交流が深まるばかりか、子供たち一人一人の、普段の授業では見られない姿を見つけることができた。調べ学習だけでは納得できなくて、祖母宅に電話をしたり、寂靜寺までわざわざ足を運んだ子もいた。翌日、自信を持って発表していた姿が忘れられない。このように、上地について少し興味が湧いてきた矢先、教頭先生が、命を捨てて戦友と潜水艦を救った成瀬正男兵曹のことを、授業で話して下さった。それを聞いた子供たちは、成瀬さんの勇気と決断力に深く感動した。早速、幼なじみの小林茂さんをお招きして、成瀬さんの子供時代のエピソードをお聞きした。福岡尋常小学校時代、成瀬さんと小林さんは名簿順が続いていたことから、一年から六年まで一つの机に二人並んで勉強していたこと。成瀬さんは、子供の時からまじめで働き者だった。忙しい時には、昼ご飯を食べる時間が惜しくて、朝ごはんを食べると一日中働いていたこと。ある日、たき火をしていてわら束に火が移りそうになった時、とっさの判断力で火事を防いだこと。徴兵検査で、成瀬さんは甲種で合格して、海軍に入隊したことなどを伺った。

学習発表会には、「ふるさと上地学習―勇気の人 成瀬兵曹」を演じようということになった。代表の児童が成瀬キミさん宅で、結婚生活や海軍に入隊してからのことを伺った。また、当時の写真を見せて頂いた。心に残った話をプロットとし、脚本作りが始まった。しかし、いさ番こうと思うと、どんなふうに話していたのだろうか。海軍ではどんな訓練をしていたのだろうか。潜水艦での訓練はどのようなものか。など、さまざまな疑問点がわいてきて、子供たちも私もベンが止まった。

そんな時、ちょうど真野君のおじいさんである、畔柳文男さんが海軍にみえたということを知り、子供たちが手旗信号の訓練の様子を聞いてきた。また、加藤米太郎さんも海軍の生証人だということを知り、知らないお宅までおじゃましてという。私自身、子供たちの行動力には感心させられた。こんなに頑張って脚本作りをしているのだからぜひとも劇を完成させたい。キミさんや小林さんに喜んでいただきたいという思いが日ごとに強くなってきた。私も子供たちに負けてはいられ